

道博協ニュース

発行 昭和55年3月31日
 発行所 北海道博物館協会(事務局)
 札幌市中央区宮ヶ丘3の1
 札幌市円山動物園内
 (011)621-1426

第11号

第十九回北海道

博物館大会せまる

昨年の第十八回北海道博物館大会は、開催館の北海道立近代美術館はじめ会員並びに関係各位のご熱意とご協力により、成功裡に終了することができました。この大会の成果をふまえ、昭和五十五年度の第十九回大会を、六月二十六日、二十七日の二日間において浦河町福祉センターで開催する予定ですが、その概要が二月二十七日の役員会において決定しましたのでお知らせします。

一 大会テーマ
 「地域の文化振興と博物館園のかかわり」

二 日程
 第一日目は、受付(午前八時三十分から九時まで)、開会式(午前九時から九時三十分まで)のあと、午前九時三十分から総会へ移り、事業計画、収支予算等の審議を行います。総会終了後、菊地寛賞を受賞されている、平取町二風谷アイヌ文化資料館副館長 萱野茂氏が、「アイヌの民具と心」と題して特別講演を行います。

園の教育普及活動」
 二分科会の司会者、発表者(応募分を除く)、助言者等については、会員諸氏にお願いする予定であります。後日事務局より依頼しますので、その節はよろしくお願いいたします。

分科会のあと、午後三時三十分から一時間の予定で、昨年の大会において初めて開催された館園長会議と学芸職員等会議が、今年も二会場に分かれて行われます。両会議の議題については、各会員の要望により設定しますので、後日事務局より照会いたします。

に討論が深められる予定です。午後五時三十分全体会議が終了し、引き続き懇親会が催されます。

二日目は、午前九時からバスで施設見学を行います。見学場所は、スタリオンステーション、浦河町立郷土博物館、農林水産省日高種畜牧場、日本中央競馬会日高育成牧場を予定しております。午後十二時三十分施設見学を終え、引き続き野外パーティー、閉会式を行い、午後二時十五分解散により二日間の日程を終了することになります。

午後の部は、午後一時から二つの分科会が左記により行われます。

(一) 第一分科会
 テーマ「地域の要求と館・園の運営管理」

(二) 第二分科会
 テーマ「地域の要求と館・園のかかわり」

午後四時三十分から再び同一会場に会して全体会議が行われ、二分科会での討論内容が報告されるほか、全体でさら

日博協頭彰の

受賞にあたって

三 浦 徳四郎

昨年九月二十日、二十一日の両日、仙台市で開かれた日博協全国大会の席上、規程一の二該当七名の中の一人として受賞の榮に浴することができました。

私の受賞のために大変なお骨折りをいただいた中川会長さん、役員各位、事務局の皆さんに衷心より感謝をいたします。

夕張市における資料の収集保存の事業は、先輩各市に比べて二十年位も遅れていると言つて過言ではないと思ひますが、昭和四十三年に郷土史の研究と資料の収集を目的とした、夕張市郷土資料保存研究会が発足、この会が中核となつて資料の収集運動が展開され、その資料の展示場所と

して昭和四十六年夕張市郷土資料室がオープンしました。

以後、開基七十五周年・市制施行三十周年記念事業として、石炭産業に主眼を置いた展示替、第十二回北海道博物館大会の実施、炭鉱資料館と改称、さらに昭和五十四年度からは、石炭の歴史村の建設が開始され、その中核としての石炭博物館と、付属の水平坑道展示、輸車路展示、史蹟夕張礦の展示、やまの生活館という事業を進めてまいりました。

顧みまして、私自身は左にをしたのどうりかと考えますと、たまたま郷土資料保存研究会発足の当時に社会教育係長であつたために中に入ったという程度で、郷土史の研究

とか、博物館のことは全くの門外漢であつたわけで、いままでの事業の一つ一つに開拓記念館の諸先生方、市門の炭鉱会社の担当の方、各組合、特に郷土資料保存研究会の皆さんのご協力、ご指導をいただいでやってきたというのが現実であります。

従つて、私が博物館事業の功労者として頭彰されたという事は、このような皆さんのあたたかい気持ちこそ与えられたものと考へております。

博物館の時代

における一提言

矢野 牧 夫

今日、博物館事業をとりまく情勢は非常に厳しいものがあるかと思ひます。予算の削減、職員体制のこと等々が山積してあり、さらに博物館に求められる住民要望も巾広く、かつ深いものがあるかと思ひます。

今後とも博物館事業の進展のため、微力乍ら努力したいと存じますので、御指導の程をお願い申し上げます。

(夕張市炭鉱資料館)

道においても、北海道開拓記念館や北海道近代美術館をはじめ、各市町村において続々と博物館・郷土館などが建設されてきた。

現在、北海道にある博物館、郷土館、資料館などに類する施設の総数は二百五十館を越すといわれている。昭和五十二年十月に、日本博物館協会の編集によつて刊行された

「全国博物館総覧」には、現在、一般に公開されている全国の主要な博物館施設が千五百館ほど網らされているが、そのなかには北海道関係の施設として百二十八館が紹介されている。先進地といわれる本州地区の都府県に比較して驚くことは、北海道の博物館関係施設の数が圧倒的に多いということである。まさに「博物館王国」を自認してもよい数字であり、北海道の博物館こそが文字どおり「地方の時代」を先取りしていたといえる。

こうした背景には、さきごろ開館百年記念事業をおこなつた市立函館博物館に代表されるような長い伝統や博物館建設に生涯をかけた多くの先輩達の努力があつたことを忘れてはならない。

「博物館の時代」を迎えたとはいへ、実際にはまだまだ整理して行かなければならぬ問題も多い。ち密な資料の調査や保存技術の研究をはじめ、充実した特色のある企画

展の開催などでは、時代の最先端を行くほどの成果が各地において報告されている。しかし、施設が大型化したり、その数が増加している反面、それらの「管理・運営」面に關する問題がまったく取り上げられることがないのはきわめて不可思議なことである。また、近年、とくに特徴的な傾向として話題になる館長クラスのみならず、無視できない問題の一つであろう。

「博物館の時代」を迎えた今日、より質的に館活動をレベルアップするうえで、今一度、それぞれの博物館の存在にかかわる「ビジョン」としての「何のために」「何を」「どうする」とかという問題を整理する必要があるようである。

幸い、北海道博物館大会では、昨年「北海道博物館・園の管理運営」が分科会テーマの一つとしてとりあげられている。施設の管理運営に關する新しい考え方が、やがて北海道から生み出されるかも知れない。

(北海道開拓記念館)

世界の動物園

(その2)

金 田 寿 夫

西ベルリン動物公園

一八四四年に創立された古い歴史をもつが、第二次世界大戦で完全に破壊され、戦後に復興された動物園である。したがって、動物舎はいずれも新しく最新の建築技術と展示法をとりいれている。

動物園の位置は市のほぼ中央で、鉄道駅の真向いにある。面積は三十ヘクタール、円山動物園よりやや広いが、展示動物数は種類で五倍以上なので、園内いたるところに動物舎が散在している。都市型動物園ではあるが、ヨーロッパ動物園の特徴である動物庭園としての配慮が随所に見られ、戦後の植樹とは思えないうっそうとした緑と広い池が園内に配置されて、落ち着いた雰囲気をもたらしている。この動物園の特徴の一つは世界一の展示動物数で、昆虫などの

無脊椎動物まで含めると

二、三二五種、一、五三二点

(一九七六年資料)になる。

参考までに、哺乳類・鳥類・爬虫類の合計数について世界の動物園を比較すると別表のとおりである。

この動物園の動物舎で特記すべきことは、屋外放養場に大きな赤褐色の自然石が豊富に使われていることで、猿山、トラ、アザラシ、クマ放養場の陸部、バックの壁は擬岩造りでは味わえない自然の調和をもたらししている。なかでもクマ類の放養場は壮大の一語につきる。シロクマ舎は直径三十メートルの半円型で高さ五メートル以上の後壁のすべてが自然石の積み重ねで、石数はおそらく数千に達するであろう。これらの石は終戦後西ベルリンを占領した三ヶ園の進駐軍が機動力を駆使して動物園に搬入したというエピソードをもっているものである。

新しい建物としては、猛獣舎と夜行獣舎を組み合わせた地下

下一階の二階建があり、

猛獣舎ではステンレスの

溶接フェンス、強化ガラスが効果的に使用され、

皇室内部がビデオ装置に写しだされるようになってい

る。夜行獣舎の一角に農家の屋根裏を模したコオモリの展示室があり、すばらしいアイデアに敬意を表したが、園長夫人の手造りとのことで、動物園運営に寄与する職員家族の熱意を感じた。

西ベルリン動物園の運営主体は協会で、市からの財政援助もあるようであるが、経営上の観客誘致策としてゾウの芸も公開していた。技術的には日本と大差ないが、演芸終了後にチーフが観客に近寄り、ほほ笑ましい光景と見え

世界の動物園飼育数(種類、点数)調べ

順位	園 名	飼育動物数(種類)			合 計	
		哺乳類	鳥 類	爬虫類	種 類	点 数
1	西ベルリン(ドイツ)	233	724	301	1258	4,491
2	サンディエゴ(アメリカ)	201	638	158	997	3,967
3	アントワープ(ベルギー)	225	569	90	884	4,137
4	ロンドン(イギリス)	197	462	161	820	2,412
5	東ベルリン(東ドイツ)	181	418	199	798	3,841
6	ダラス(アメリカ)	98	309	309	716	2,178
7	アムステルダム	169	361	126	656	2,318
参考	上野動物園(日本)	90	248	119	457	1,730

うつろなまなざしと動作から動物とは無縁な入園者と考えられ、西ドイツの老人福祉がどうなっているのか一寸気になる風景であった。

(札幌市円山動物園)

§ § § § §

浦河町立郷土博物館の展示について

浦河町立郷土博物館

浦河町の郷土博物館は昭和五年十一月に現在の建物に移転しました。移転前は旧日高支庁庁舎を利用していました。現在は旧小学校校舎を活

用しており、構造はブロック一部木造です。建築面積は一〇八〇平方メートルです。

当館は博物館としての機能を十分に発揮するために展示室の他に研修室・作業室・収蔵庫・写真・暗室等の室も完備しています。

展示室は四一五・五平方メートルで、元の学校の教室及び廊下等を利用しました。展示室は建物の構造上各部屋の仕切を取ることができないので、各部屋ごとにテーマを設定しました。また紫外線が入らないようにし、高湿度を防ぐための換気扇も付けました。照明はスポットライトと蛍光灯です。壁は写真パネルや実物資料も展示できるように幅一八〇センチメートルのパネル貼りしました。色は展示演出に変化と効果をもたせるために、各室別々の色彩にしました。

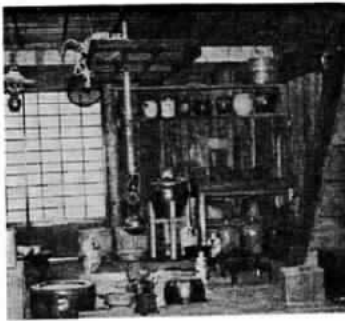
展示資料は、浦河町に関係する実物資料を中心に、それらを補助する写真パネル、模型等で、展示ケースと展示ステージ及び復元家屋、生態展示によって演出しています。当博物館の展示では、観覧者の方々が、浦河町の自然・歴史を理解し易いことと、資料そのものもよく理解できることに重点をおいています。

つまり前者については実物資料・写真パネル・解説パネル等でも可能ですが、実物資料自体の理解となると、ただ解説を読み、形態を観察するだけでは不十分なので、実際にその資料に触れてもらうということを配慮しています。そのため実物資料はなるべく展示ステージに展示することにしています。なお触れることによって破損する恐れのあるものや小型資料等は展示ケースで展示しています。こうしたことを基本に五つのテーマで次のような資料を展示しています。

「めぐまれた自然」は浦河町の自然を理解しやすいように動物剥製・アンモナイトの化石・樹幹標本等の資料を展示しており、特に剥製は生態展示で演出しています。「埋れていた歴史と先住民」は先史時代の土器石器等やアイヌ民族の資料を展示しています。「探検と開拓」は明治以前、開拓の頃、開拓以後の生活資料を旧家屋を一部復元した内部に展示し一目で分かるように展示しています。「新しい町づくり」は農業・水産業・林業等の産業資料を展示しています。「馬と人」というテーマで、馬産地浦河の馬産を強調し、馬産馬事資料を展示

することによって郷土色豊かなものとしめました。また、通路の壁には「私達の文化財」「開拓と浦河」「町民の広場」等のテーマで写真パネル、解説パネルにより各展示室への導入・補充の役割を果たしています。その他、新資料を収集してきた場合は、その中から主なものを選択して、資料収集状況や収集内容を町民の方々に理解して頂き、積極的に資料を寄贈して下さるよう啓蒙することを目的とした「新資料コーナー」を設置しています。なお、収蔵庫では資料を分類整理して、観覧しやすい収蔵展示を行なっています。以上のように郷土色豊かな内容と理解しやすい方法で展示の充実を計っています。

所在地 浦河郡浦河町西幌
別二七三一
電話 (〇一四六二)
八一三四二



北海道博物館協会 学芸職員部会の新 役員決定

二月二十二日開催された定期総会において学芸職員部会の新役員が決定いたしました。各役員は次のとおりです。お知らせいたします。

- 二月二十二日開催された定期総会において学芸職員部会の新役員が決定いたしました。各役員は次のとおりです。お知らせいたします。
- 部会長 矢野牧夫(北海道開拓記念館)
- 副部会長 武田厚(北海道近代美術館)
- 幹事 沢四郎(釧路市郷土博物館)
- 千代肇(市立函館博物館)
- 佐藤一夫(百小牧青少年センター)
- 山之内統(上士幌町ひがし大雪博物館)
- 杉浦重信(富良野市郷土館)
- 金盛典夫(斜里町立知床博物館)
- 亀谷隆(北海道開拓記念館)
- 野村崇(北海道開拓記念館)
- 土屋周三(小樽市博物館)
- (。印事務局長)

会員の異動

- 入会
 - 。団体
 - 釧路市青少年科学館
 - 釧路市春湖台一番七号
 - 。個人
 - 黒崎康雄
 - 野村崇

事務局だより

今年の冬は例年にない大雪で、雪融けも遅くおりましたが、ようやく春の訪れとなりました。新年度を迎え、会員各位におかれましては何かとお忙しい毎日のことと思っております。本年度の最大の事業であります第十九回北海道博物館大会については、開催を引き受けられた浦河町教育委員会のご尽力により、順調に準備を進めておりますが、会員各位のご協力もあわせてお願いいたします。本年度より団体費、個人費が値上げになりますが、請求書を五月中に送付しますので、早目に納入されますようお願いいたします。